

# 初年次教育学会

## ニュースレター 第11号

Japanese Association of First Year Experience  
at Universities and Colleges

初年次教育学会 事務局分室

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

TEL: 03(6824)9372 FAX: 03(5227)8631

E-mail: jafye-office@bunken.co.jp

事務局

法政大学 藤田哲也研究室内

### 今号の内容

1. 巻頭言 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」に思う
2. 事務局からのお知らせ
3. 学会誌編集委員会からのお知らせ
4. 第11回大会 開催報告
5. 第12回大会について
6. 2018年度「初年次教育実践交流会」報告
7. 将来構想実行委員会からのお知らせ
8. 総務・広報委員会からのお知らせ:「初年次教育学会倫理綱領の制定について」(意見募集)
9. 編集担当より

### 1. 巻頭言 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」に思う

会長 藤本 元啓(崇城大学)

2007年12月に設立した本学会は、今年12年目を迎えることとなります。この間、各地で地震や台風による大きな災害が起り、昨年の酪農学園大学での大会2日目には北海道胆振東部地震が発生しました。改めて被災地のみなさまに、衷心よりお見舞いを申し上げます。復旧にはいまだ少し時間がかかるものと存じますが、一日も早い復興を願って止みません。

会員各位には新年度を迎えご多忙と存じますが、この「ニュースレター」第11号にて本学会の動向や今年度の予定等をご確認ください。そして9月の創価大学での大会と各地での実践交流会において、初年次教育を含めた高等教育に関する理論・実践の情報を交換し、我が国の高等教育が目指すべき姿を熱く語り合えることを楽しみにしております。

さて、昨年11月に中央教育審議会から「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」が公表されました。答申は大きく6項目にわたっていますが、初年次教育との関係から少しく述べさせていただきます。

答申の「2040年の展望と高等教育が目指すべき姿」には、「普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身につけ」、「時代の変化に対応して積極的に社会を支え、論理的能力を持って社会を改善していく資質を有する人材」

を育成するために、「個々の教員の教育手法や研究を中心にシステムを構築する教育からの脱却」を目指し、「何を学び、(何を)身につけることができたのか」という「学修者本位の教育への転換」が示されています。

初年次教育担当者は、個々の教員として、あるいは教育センター等の組織の一員として、様々なプログラムを実践していらっしゃいます。一方で、本学会でもしばしば議論の対象となることですが、担当者がどんなに尽力しても初年次教育プログラムで学修したことが、その場限りのものになっている場合が多いという問題です。2年次や専門教育課程との接続・連携等の重要性を認識していても、その解決のための学科・学部等学内での調整がうまくいかないことを痛感されている方も少なくないと思います。

小生は一教員の尽力だけでは目指す教育が「点」になりがちで、それを「線」に、さらに「面」に拡大して教育プログラムの連動をカリキュラム上に設定することこそ、教育システムの根幹と考えています。例えば、基礎的・汎用的能力を身につけるには、教養教育と専門教育さらには正課外教育を含めた、つまり学士課程教育全体で連続・反復すべきなのです。そしてこれは決して新しい考えではなく、至極当然のことでもあります。

しかし今日まで我々は、恐らくそれは機能しているはずと都合のよい理解をしていたのか、あるいは等閑視していたのではないのでしょうか。大学組織全体でこの問題を認識して解決する方向に向かわなければ、いつまでたっても成果はあらわれないでしょう。大学を取り巻く環境が一層厳

しさを増すなか、多様な新入生を対象とする初年次教育の  
カリキュラム上での位置づけが、これまで以上に重要にな  
ったと思えてなりません。しかもこれは初年次教育に限っ  
たことではなく、数理科目と理工学専門科目との関係のよ  
うな教養教育と専門教育との接続・連携、またあらゆる学  
科(分野)のキャリア教育や倫理教育等についても同様と  
考えます。

異論があることを承知の上で申しますと、各大学には、  
その「立ち位置」をとおして、「個々の教員の教育手法や  
研究を中心の教育システムからの脱却」を目指すべきか  
(目指すことができるか)、否かの判断が、改めて問われ  
ているのではないのでしょうか。答申が唱える「時代に変化  
に応じた迅速かつ柔軟なプログラムの編成」について全学  
を挙げて検討し、速やかに実行に移す最後の機会が「いま」  
であると再認識した次第です。みなさまは、いかがお考え  
でしょうか。

## 2. 事務局からのお知らせ

事務局長 藤田 哲也 (法政大学)

いつもお世話になっております。事務局長の藤田哲也  
(法政大学)です。事務局から3月6日に皆様に向けて配  
信したメール内容と重複するものも含まれますが、以下に  
ついてお願い申し上げます。

### (1) 2019年度年会費納入のお願い

既にお手元に2019年度年会費納入のための振替用紙が届  
いているかと思えます。5月31日までに納めていただけれ  
ば幸いです。

### (2) マイページ活用のお願い

2016年度からマイページの運用が始まっています。マイ  
ページからは、会員情報(所属等)の変更が行えます。4月  
以降、異動される方、メールアドレスを変更される方などは、  
ご自身で登録情報を変更することができます。年会費の納入  
状況もご確認いただけます。ぜひご活用ください。

#### 初年次教育学会マイページへのアクセス方法

- a. 下記 URL からマイページへアクセスする。
- b. 「会員番号」「パスワード」を入力し「ログイン」  
をクリックする。

マイページ URL :

<https://iap.jp.org/jafye/mypage/login/login>

※学会ホームページからもマイページにアクセス  
できます。

ログインに必要な「会員番号」「パスワード」は、2015年  
度に既に会員だった方には2016年3月16日頃に、2016年  
度以降に入会された方には入会時にお送りしたメールに記  
載されています。今後も必要となりますので、お手元にお控  
えください。

その他、何かご不明な点などございましたら、お気軽に事  
務局にお尋ねください。引き続きよろしくごお願い申し上げま  
す。

### (3) 役員(理事)選挙を行います

2019年度は、2年ごとに行われる役員、すなわち理事選  
挙の年にあたります。現在、4月15日投票開始、5月7日  
投票締め切りという期間で実施できるよう、選挙管理委員会  
を設置して準備を進めているところです。役員被選挙権およ  
び選挙権を有するのは、2018年度に個人会員であり、当該  
役員選挙投票締切日(2019年5月7日)において引き続き  
個人会員であり、2018年度までの学会費を納入している方  
になります。4月15日前後に投票用紙および選挙要項をお  
送りする予定です。お手元に届きましたら、要項をよくお読  
みいただいた上で、投票をよろしくごお願い申し上げます。

その他、何かご不明な点などございましたら、お気軽に事  
務局にお尋ねください。

## 3. 学会誌編集委員会からのお知らせ

編集委員長 川島啓二 (京都産業大学)

2019年3月発行予定の『初年次教育学会誌』第11巻第  
1号の発行が遅れております。昨年に引き続いての発行遅  
れとなり会員各位には深くお詫び申し上げます。現在編集  
作業を進めておりますので、今しばらくお待ちください。  
今号より新しい編集委員会体制での編集作業です。

今号では査読を経た研究論文3本、事例研究論文1本が  
掲載され、また、酪農学園大学で開催されました学会第  
11回大会での大会企画シンポジウム(「初年次教育とチーム  
づくり ― 動機づけとリーダーシップの側面から ―」)の  
内容もそのまま掲載されます。ただ、ご案内のように、課  
題研究シンポジウムは北海道胆振東部地震のため中止と  
なりましたので、シンポジウム「報告」としてではなく、  
「課題研究」論文としてシンポジウム登壇予定だった先生  
方に新たに書き下ろしていただきました。ご執筆いただ  
いた先生方には大変なお骨折りをいただくこととなり、厚く  
御礼を申し上げます。

巻頭言は、現在諸方面で大活躍中の山本啓一理事(北陸  
大学)にご執筆いただきました。その他自著紹介など充実  
した内容となります。

次号は第 12 巻第 1 号となります。会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。以下、原稿募集の概略をお知らせいたします。

#### (1) 次号の発行時期について

2020 年 3 月の発行を予定しております。

#### (2) 投稿論文の締切について

第 12 巻の投稿締め切りは 2019 年 5 月末日となります。ただし、学会誌の編集規程および論文の執筆要領に従っていない場合には、投稿論文を受領することはできません。そのような理由で返戻された論文を修正した上で再投稿する場合の期限も 5 月末日となります。提出期限間際に投稿された論文については、規程・要領に従っているか否かの確認が期限後となり、結果的に査読対象から外れることもあり得ます。特に執筆テンプレートの利用、および図表については本文中には該当箇所を示すだけとして、図・表いずれもテンプレート末尾のページに掲載することについて、該当されるかたは改めてご注意いただければ幸いです。

#### (3) 原稿の執筆、投稿、その他詳細について

初初年次教育学会のホームページに記載している「初年次教育学会誌執筆要領」「執筆テンプレート」をご参照ください。指定した書式通りでない原稿は受け付けることができませんのでご注意ください。

<http://www.jafye.org/society/regulations/shippitsuyoryo/>

#### (4) 投稿論文の提出先について

初年次教育学会 HP の電子投稿システムからお手続きください。皆様からの投稿をお待ち申し上げます。

<https://iap-jp.org/jafye/post/Login>

#### (5) 投稿資格および 1 巻あたりの投稿数について

本誌に論文を投稿することができる者は、共同執筆者を含め、前年度までに入会し 3 月末までに会費を納入している個人会員および機関会員に限られます。また、1 巻あたりに投稿できる論文の数にも定めがあります。詳細は、初年次教育学会誌編集規程第 9 条をご確認ください。より多くの会員の皆様から、充実した研究論文および事例研究論文の投稿をお待ちしております。

<http://www.jafye.org/society/regulations/henshukitei/>

## 4. 第 11 回大会 開催報告

第 11 回大会実行委員長 大和田 秀一（酪農学園大学）

初年次教育学会第 11 回大会は、酪農学園大学（北海道江別市）において、2018 年 9 月 5 日（水）、6 日（木）両日にわたって執り行われるはずでしたが、4 日から 5 日にかけての「非常に強い勢力」を持った台風 21 号の上陸、6 日未明の北海道胆振東部地震とそれによる全道ブラックアウトの二重災害に襲われ、初日午後の学会総会、大会企画シンポジウム、自由研究発表の 8 部会、そして情報交換会を行うことしか叶いませんでした（他に、教育実践賞のポスター発表、賛助会員企業によるブース展示とランチタイム PR も実施）。

心血を注いで発表やラウンドテーブルの準備をされた会員の皆様、ワークショップの準備をされた理事の皆様、課題研究シンポジウムの講師の皆様、台風の被害に遭われ来道が叶わなかった皆様、そして、万難を排して参加して下さったにもかかわらず地震と停電の憂き目に遭われた皆様に、改めて心よりお見舞い申し上げます。また、このような苦労をされた参加者・関係者の皆様から、逆に「せっかく準備されたのに残念でしたね」との温かい慰藉のお言葉を度々いただきました。実行委員を代表して厚くお礼申し上げます。

大会テーマの「初年次教育とチームづくり ― 動機づけとリーダーシップの側面から ―」は、初年次教育プログラムへの学生の関与の濃淡を克服するために如何に共同体意識を育むか（もしくは共同体意識の育成そのものが初年次教育プログラムの重要な目的の一つではないでしょうか）という筆者の課題認識と、酪農学園の沿革にかかわる協同精神を重ね合わせる思いで設定されました。同タイトルの大会企画シンポジウムは、中谷素之先生（名古屋大学）と日向野幹也先生（早稲田大学）をお迎えして、幸運にも行うことができました（一方、このテーマに関連して用意された二つの大会校企画ワークショップは、他のプログラムと同様に行うことができませんでした）。

第 11 回大会は、学会設立 10 周年の記念すべき大会でしたが、このような残念な仕儀に終わってしまいました。大会参加者は合計 217 名で、内訳は事前登録者 140 名、当日参加登録者 77 名です。会員種別では、学会会員は 136 名、非会員 48 名、賛助会員企業からの参加 18 名、大会校からの参加 15 名でした。2017 年の第 10 回大会（中部大学）の参加者総数 324 名と比較すべくもありませんが、この悪条件の中、“四分の一”開催であったことからすれば、多数のご参加を得ることができたと言えるのではないのでしょうか。

次回の第 12 回大会は、2019 年 9 月 6 日（金）～8 日（日）の 3 日間（！）、東京八王子の創価大学で開催されます。

関田実行委員長に第 11 回大会の経験を引き継ぐことに努め、微力ながら第 12 回大会のお役に立てればと思います。森の中に荘厳な建物が立ち並ぶキャンパスで皆様と再会することを楽しみにしております。

## 5. 第 12 回大会について

2019 年度の大会は、2019 年 9 月 6 日(金)～9 月 8 日(日)の 3 日間、「初年次を超えた初年次教育」をテーマに東京都八王子市の創価大学で開催されます。大会 HP は 4 月 9 日公開の見通しです。これに合わせ発表申込は 4 月 9 日頃から、参加申込は 6 月 11 日頃から受付を開始する予定となっております。会員の皆様多数の発表申込・参加申込をお待ちしております。大会 HP が公開されましたら改めて連絡差し上げますので、今しばらくお待ちください。

大会では、発表申込と同時に発表要旨原稿も提出いただく必要があります。余裕を持って準備を進めて下さるようお願いいたします。発表申込及び要旨原稿の提出期限は 5 月 15 日頃の予定です。

## 6. 2018 年度「初年次教育実践交流会」報告

地域活動活性化委員会委員長 安永 悟 (久留米大学)

今年度は、5 月に北陸(金沢)、7 月と 10 月に久留米大学、8 月に創価大学で初年次教育実践交流会を開催しました。その概要を以下に報告します。

実践交流会は地域の実情や参加者の要望に応じて自由な企画をお願いしています。参加者も本学会会員に限定する必要はありません。企画内容は、初年次教育に関係していれば幅広く柔軟に考えていただいて構いません。ただ、単なる講演会はご遠慮ください。あくまでも初年次教育の一環として実施している、正課や課外の授業・プログラム・取組等の成果や失敗例など、現場担当の教職員各位の報告や話題提供、および意見交換を趣旨としています。

### 第 1 回 初年次教育実践交流会 in 北陸

日 時：平成 30 年 5 月 26 日(土)

会 場：石川憲政記念館しいのき迎賓館

主 催：初年次教育学会地域活動活性化委員会

共 催：石川県公立大学法人「楽しい活動性の高い授業つくろう会」

プログラム：司会・澤田忠幸(石川県立大学)

1. 趣旨説明：垣花涉(石川県立看護大学)
2. 実践報告 1 寺西望(金沢高校)『総合的な学習の時間』の実践～真正の学びを目指して～
3. 実践報告 2 井川健太(金沢泉丘高校)「本質的理解

につなげる授業作り～Brain's on を目指して～

4. 実践報告 3 北山幸枝(石川県立看護大学)「大学生としての学び入門～情報リテラシー教育を通して～」
5. 実践報告 4 小椋賢治(石川県立大学)「専門課程の導入としての AL～有機化学と食品学各論の実践～」
6. パネルディスカッション 「高校と大学の接続教育と AL に関するフロアとの意見交換」  
コーディネーター 藤本元啓(崇城大学)  
指定討論者 山本啓一(北陸大学)
7. 総括：西村 秀雄(金沢工業大学)
8. 概要

①高等学校教員の報告には、ワークシートの活用を前提とした「個人思考→グループ討議→発表→討論」のサイクルでの授業(総合学習)をおこなって効果をあげている。

②高等学校「物理」では、「講義→実験・演習・発表→確認テスト→振り返りシート(紙媒体のポートフォリオ)」をサイクルとする授業形態を実施

③高等学校全体の課題として、学習指導要領の制約、教科間の連携等があげられた。

④大学側の報告は目新しいものはなかったが、振り返りシートの活用は学生教員双方に有効なツールとして認知されているとの報告があった。

⑤パネルディスカッションでは、学修サーキット、カリキュラム上での初年次科目の位置づけ、組織的な学習スキル展開(例えば表現力、思考力、発進力、協働など PBL 型科目の学年進行にともなう質的实施)が最も重要であることへの議論が集中し、各大学・高等学校での課題となっている点が確認された。

参加者 52 名。遠方は鹿児島からの参加者あり。次年度も金沢で開催の予定。(文責：藤本 元啓・崇城大学)

### 第 2 回 久留米「協同教育フェスタ」

日 時：平成 30 年 7 月 21 日(土)、10 時～17 時

会 場：久留米大学御井キャンパス学生会館ミーティング  
＝ルーム 3

1. 挨拶・導入 安永悟(久留米大学)
2. 実践研究 1 清藤弥希(福岡県立輝翔館中等教育学校)「化学的な見方や考え方を育てる『化学基礎』学習指導—『シンク・ペア・シェア』を取り入れた単元構成を通して—
3. 実践研究 2 石山信幸(久留米市立南筑高等学校)「協同学習による評価の始め方—高校数学の授業づくりを通して—

4. 理論研究 原田信之 (名古屋市立大学) 「子どもの学習に何が最も効果的か ―ジョン・ハッティの学習者を生かす教育のエビデンス―」
5. 協同教育カフェ (全体交流)
6. 事務連絡・閉会
7. 概要  
協同教育研究所「結風」主催の「協同教育フェスタ」を「初年次教育実践交流会」としてお認めいただき、初年次教育学会との共催という形で開催している。今回の参加者は北海道から沖縄まで、70名を超える参加者があった。

### 第3回 初年次教育実践交流会 in 東京

日時：平成30年8月29日(水)、14～17時  
会場：創価大学中央教育棟4階AW401教室  
テーマ：新入生の文章表現・ライティング指導の課題と工夫  
主催：初年次教育学会地域活動活性化委員会  
共催：創価大学学士課程教育機構  
後援：日本リメディアル教育学会、大学コンソーシアム八王子

プログラム：司会・関田一彦(創価大学)

1. 挨拶・開催趣旨説明 藤本元啓(初年次教育学会会長)
2. 実践報告1 佐藤広子(創価大学) 「全学必修化とライティングセンターにおけるチュータリングサービス」
3. 実践報告2 井下千子(桜美林大学) 「初年次教育で求められる文章表現・ライティング指導とは何か」
4. 実践報告3 藤本元啓(崇城大学) 「初年次教育におけるライティング指導の回顧と展望」
5. 休憩、意見・感想落書きタイム
6. フロアと意見交換
7. 総括・あいさつ 安永悟(久留米大学)
8. 概要

当日は50名を超える参加者があった。交流会の後にとったアンケート結果によれば(回答者数40名)、初年次教育学会の会員が18名、日本リメディアル教育学会の会員が9名、創価大学職員が1名、その他16名であった(複数回答あり)。報告内容について「大いに満たされた」18名、「概ね満たされた」20名、「やや不満が残る」1名であった。

### 第4回 久留米「授業づくり研究会」

日時：平成30年10月13日(土)、13～17時  
会場：久留米大学御井キャンパス学生会館ミーティング＝ルーム3

1. 挨拶・導入 安永悟(久留米大学)

2. 実践・研究報告1 和田珠実(中部大学) 「LTDによる初年次英語リーディング授業の活性化―自己効力感を中心に―」
3. 実践・研究報告2 甲原定房(山口県立大学) 「ゲームを用いた授業とそのアレンジ」
4. 全体交流・閉会
5. 概要  
協同教育研究所「結風」主催の「授業づくり研究会」を「初年次教育実践交流会」としてお認めいただき、初年次教育学会との共催という形で開催している。参加者は46名であった。

## 7. 将来構想実行委員会からのお知らせ

将来構想実行委員会 山田 礼子(同志社大学)

### (1) 初年次教育関連出版について

学会の設立10周年を記念して、『初年次教育の現状と未来』の後継となる書籍を世界思想社より2018年8月に刊行いたしました。「初年次教育のこれまでと現状」「高大接続といった現代的な課題と初年次教育」「初年次教育をめぐる実践的な方法・方略とこれから」といったテーマを柱に「学会の歩み」を加え検討を進めてきました。『進化する初年次教育』という題名で4部構成、17章からなる202頁の本です。本学会員はもちろん、大学教職員、高等学校教員はじめ中等・初等教育の関係者などを対象に、理論と実践の両側面から初年次教育について明らかにすることを通じて、将来に向けた視点が盛り込まれており、タイトル通りの進化する初年次教育の内容となっています。執筆者一同、皆様の初年次教育プログラムの構築や実践の参考になるものと期待しております。

### (2) 教育実践賞について

初年次教育学会では、初年次教育に関する実践の発展とその成果の普及によって大学教育の改善に資するため、効果的な初年次教育の実践例を表彰し、学会内外に広く紹介することとしました。

しかしながら「4. 第11回大会 開催報告」(pp.3-4)にあるような事情で、審査および第11回大会での表彰が不可能となりました。この件に関して実践教育賞審査委員会が審議した結果、下記の方針を決定いたしました。

- ・審査を2019年4月中に終え、5月連休明けに審査結果を理事会および対象者に報告する。
- ・審査表を集約したうえで、最優秀賞、優秀賞等の名称と件数等を決定する。
- ・第12回大会で授賞式を行う。可能であれば大会会場に

受賞取組のポスターを掲示する。

## 8. 総務・広報委員会からのお知らせ：「初年次教育学会倫理綱領」の制定について（意見募集）

ご存知のように近年、研究者および学生・生徒を対象とした研究倫理とその教育の重要性が指摘されていますが、現在、本学会では明確な研究倫理規定が整備されていません。さらに本学会の場合、IRデータの取り扱いや、被験者を使用する場合の同意および、所属組織（研究倫理委員会等）による計画～実施～報告までの承認等について、大きな問題が潜在的に存在しており、研究倫理規定の整備が喫緊の課題となっています。

しかし研究倫理規定は本来、上位の学会倫理綱領を受けて定められるものです。そこで今回は、まず、研究倫理を含めた学会倫理綱領を制定することとし、理事会および第11回大会総会で承認されました。これを受けて総務・広報委員会が学会倫理綱領（案）を作成し、議論を経た後、添付の修正案が2018年度第4回理事会にて承認されました。

会員の皆様におかれましては、添付の学会倫理綱領案をお読みいただき、ご意見がある場合は5月31日までに総務・広報担当までにご意見をお寄せください。今後、皆様からの意見を受け、6月および9月の理事会で再度審議した上で、第12大会における総会で学会倫理綱領案のご承認をいただきます。

ご一読いただくとご理解いただけると思いますが、現在の案は必ずしも完全な案ではありません。学会倫理綱領は、本学会および学会員が目指すべき理想や理念、目標を掲げると同時に、それを受けて不正行為の禁止等に言及します。つまりいずれもかなり高い抽象性が求められます。しかし案では、一部においてかなり具体的な行為に言及しており、抽象度が必ずしも統一されておりません。倫理綱領と研究倫理規定を同時に制定できればこのようなことにはならないのですが、研究倫理規定については会員が所属する、広い分野や多様な所属組織の事情を考慮する必要があります。またあまりに厳格すぎると、大学院生等の次世代を委縮させることにも繋がりがねません。そこで今回は、抽象度が必ずしも統一されていないことを承知の上で、特に避けねばならない行為について取り急ぎ記すことにしました。

このような事情があるため、第12回大会の総会で学会倫理綱領案が承認された場合は、引き続き、

- ・研究倫理規定の制定（新規）
- ・投稿・大会発表規定の整備

を行います。

倫理綱領案に関するご意見は、メールにて総務・広報担当

の西村へお寄せ下さい。頂戴したメールには受領した旨を返信いたします。万一返信がない場合は、お手数ですが再度ご連絡をお願いいたします。西村のメールアドレスは以下の通りです。

[h\\_nishi@neptune.kanazawa-it.ac.jp](mailto:h_nishi@neptune.kanazawa-it.ac.jp)

（文責：西村 秀雄）

## 9. 編集担当より

総務・広報委員会 西村 秀雄（金沢工業大学）

### (1) 賛助会員による広告添付について

賛助会員には、年1回、会員への情報提供の際に、A4で1ページ分の広告・情報提供資料の添付が認められております。本学会ニュースレターでは第4号より、それまでのメール添付ではなく、学会ウェブに本文（このファイル）および広告データを次号刊行まで掲載します。

なお、学会および学会事務局は、これらの広告内容に関与しておりません。

<http://www.jafye.org/newsletter/nl11/>

### (2) 実践事例の募集について

ニュースレターに掲載すべき実践事例や事例紹介などを募集しております。掲載ご希望の方は学会事務局にお知らせください。

### (3) 事務局分室について

本学会では国際文献社に事務局業務の委託を行っております。問い合わせ等につきましては以下をご確認ください。

#### 事務局分室

〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

TEL: 03(6824)9372 FAX: 03(5227)8631

E-mail: [jafye-office@bunken.co.jp](mailto:jafye-office@bunken.co.jp)

事務局 法政大学 藤田 哲也研究室内

編集：西村 秀雄（総務・広報委員会）

（2019年3月31日第1版公表）